



地域のお宝 まちあるきマップ

水と歴史のまち城西



歴史 I

神社・仏閣・史跡を歩く

- 城西公民館
約220m
- 1 天倫寺 約550m
 - 2 尼子・毛利の古戦場 約1300m
 - 3 龍徳寺 約200m
 - 4 玖夜神社 約900m
 - 5 法眼寺 約400m
 - 6 月照寺 約170m
 - 7 清光院 約180m
 - 8 阿羅波比神社 約100m
 - 9 正覚寺 約160m
 - 10 大雄寺 約300m
 - 11 愛宕神社 約300m
- 城西公民館
約4,780m

歴史 II

町屋を歩く

- 松江市役所
約270m
- 1 内村鑑香碑 約240m
 - 2 須衛郡久神社 約100m
 - 3 京屋小路 約60m
 - 4 紺屋小路 約210m
 - 5 京橋川 約230m
 - 6 國陣酒造 約160m
 - 7 ガラエ丁 約70m
 - 8 鉤型路 約250m
 - 9 土手下三宮大荒神 約70m
 - 10 筋違橋 約180m
 - 11 浅野小児科医院 約450m
 - 12 旧田野医院 約210m
 - 13 荒隈橋
- 松江市役所
約2,500m

水辺 I

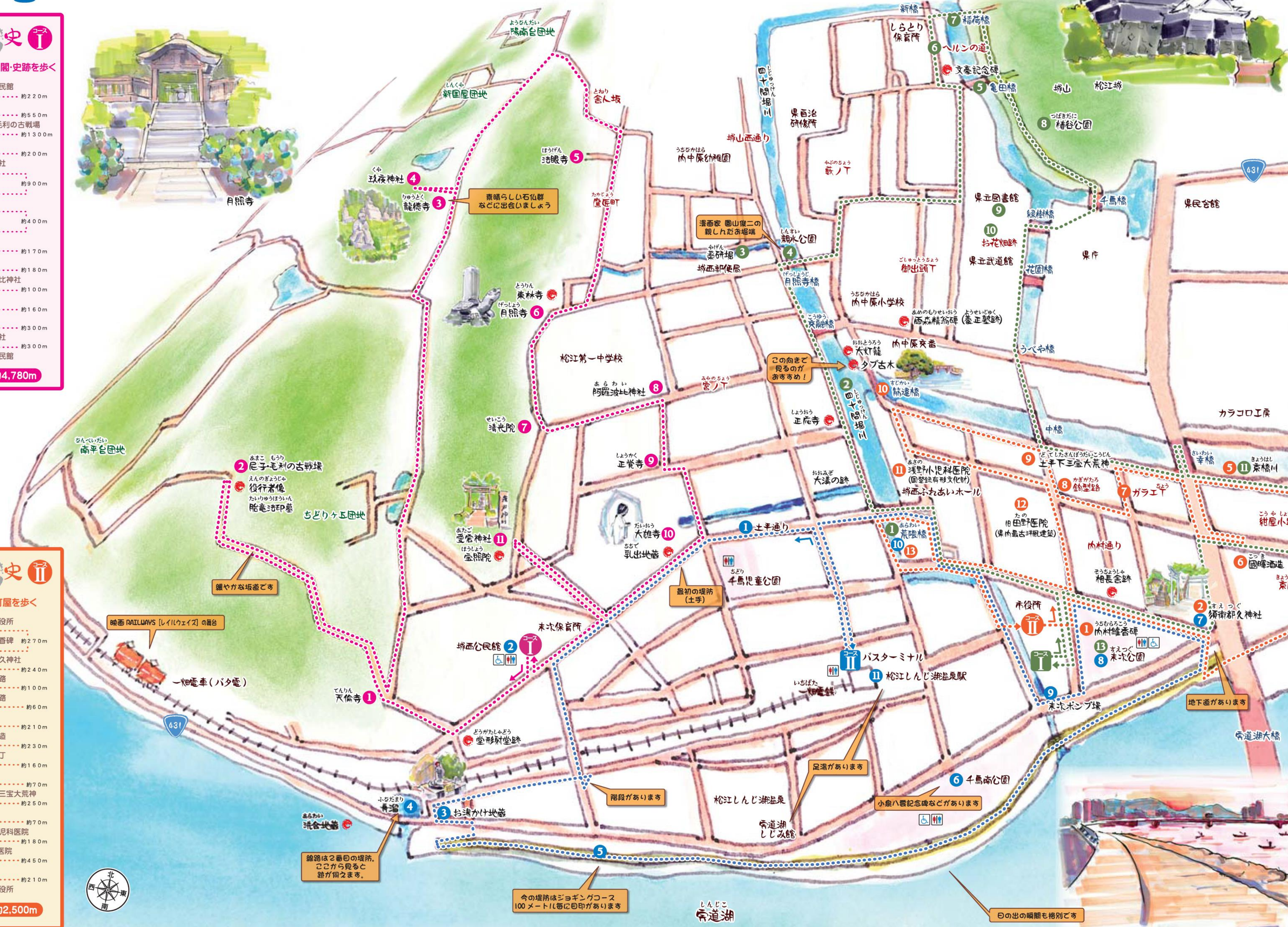
堀端を歩く

- 松江市役所
約300m
- 1 荒隈橋 約400m
 - 2 四十間堀川 約600m
 - 3 薬研堀 約260m
 - 4 親水公園 約600m
 - 5 亀田橋 約120m
 - 6 ヘルンの道 約750m
 - 7 稲荷橋 約60m
 - 8 櫓谷公園 約400m
 - 9 県立図書館 約150m
 - 10 お花畑跡 約300m
 - 11 京橋川 約400m
 - 12 紺屋小路 約150m
 - 13 末次公園
- 松江市役所
約3,640m

水辺 II

宍道湖畔を歩く

- 松江しんじ湖温泉駅
約200m
- 1 土手通り 約450m
 - 2 城西公民館 約400m
 - 3 お湯かけ地蔵 約80m
 - 4 舟溜 約1300m
 - 5 宍道湖畔ジョギングコース 約100m
 - 6 千鳥南公園 約240m
 - 7 須衛郡久神社 約300m
 - 8 末次公園 約350m
 - 9 末次ポンプ場 約350m
 - 10 荒隈橋 約350m
 - 11 松江しんじ湖温泉駅
- 約3,420m



水と歴史のまち城西

地域のお宝 まちあるきマップ



亀田橋



神社・仏閣・史跡を歩く ～ 季節の花々、古樹・古木を眺めながら ～

城西地区にはたくさんの神社やお寺があります。一つのコースでは回りきれないほどです。ここでは主に天倫寺の北側、月照寺の西側の山裾を巡るコースをたどります。それぞれに悠久の歴史や言い伝えのある神社仏閣、史跡です。ゆっくりと歩いてみましょう。この他にも身近な神社やお寺、道ばたのお地蔵さんや祠にも目を向けてみましょう。昔を思い出してゆかしさや懐かしさを感じたり、新たな発見があったりするかもしれません。

スタート▶▶ゴール 松江市城西公民館

① 天倫寺(てんりんじ)

堀尾吉晴公が建てた瑞応寺が移された跡に、寛永 16 年(1639 年)松平家初代松江藩主松平直政公が開いた寺。銅鐘は 1400 年頃高麗から伝来したもので、細密精巧な彫刻と音のいいことで知られ国の重要文化財です。

境内からの穴道湖眺望は昔から穴道湖十景、松江八景の一つに数えられています。ツバキ(天倫寺月光)も知られています。



月照寺 あじさい

② 尼子・毛利の古戦場(あまこ・もうりのこせんじょう)

洗合城跡。幸魂山(陣賀山)には役行者の石像、胎亀法印の墓があります。

③ 龍徳寺(りゅうとくじ)

曹洞宗のお寺。境内には石造の出雲三十三カ寺札所巡礼堂閣や十六羅漢像の力作があります。

④ 玖夜神社(くやじんじゃ)

「出雲国風土記」に載っている社で地域の氏神。

舎人坂(とねりざか) 法吉郷の長の館があったところで、これに仕える役人「舎人」から名付けられたとも、松江藩の家老大野舎人の下屋敷があったから名付けられたとも言われています。

⑤ 法眼寺(ほうげんじ)

曹洞宗の古刹(松江市の橋北では最古)。松江藩の財政再建に功績があった家老朝日丹波の墓があります。

鷹匠町(たかじょうまち) 藩主の鷹狩り用の鷹をあつかう役人「鷹匠」が住んでいた町です。

⑥ 月照寺(げっしょうじ)

松江藩主松平家墓所(国指定史跡)。高真院(初代直政公)廟門と大圓庵(七代治郷公 号 不昧)廟門は県指定有形文化財。

廟門の葡萄透かし彫り(小林如泥作)も見逃せません。天隆院(六代宗衍公)廟所の寿蔵碑「大亀」は小泉八雲の随筆にも登場します。

松江藩お抱え力士 雷電為右衛門之碑 もあります。

“山陰のあじさい寺”として有名で開花時期には多数の観光客で賑わいます。ツバキ(月照寺紅、紅唐子)も知られています。



月照寺 大亀

⑦ 清光院(せいこういん)

曹洞宗のお寺。最初の県議会は明治 12 年(1879 年)にここで開かれました。怪談「松風」も有名です。

枝垂れ桜(4月上旬)、ヤマボウシ(6月)も見応えがあります。

⑧ 阿羅波比神社(あらわいじんじゃ)

「出雲国風土記」にも記載されている社で地域の氏神。もとは洗合山にあったが、尼子毛利の戦のおり毛利元就が本陣設営のため現在地に移したと伝えられています。

⑨ 正覚寺(しょうかくじ)

真宗のお寺。かつては学問の寺と言われました。境内に雲州力士雷電為五郎、その弟子釈迦ヶ嶽雲右衛門の墓石が並んでいます。

⑩ 大雄寺(だいおうじ)

法華宗のお寺。松江開府の際に広瀬町から移されました。山門は殿様専用と伝えられています。小泉八雲の怪談「水飴を買う女」で有名です。参道入口付近に乳出地蔵があります。

⑪ 愛宕神社(あたごじんじゃ)

堀尾吉晴公が築城時に裏鬼門にあたる現在地に遷座し、城下の鎮火守の神として広く信仰されています。

124 段の石段を登ると穴道湖や松江城が見えます。ヤブツバキ(愛宕明月、愛宕山)も知られています。

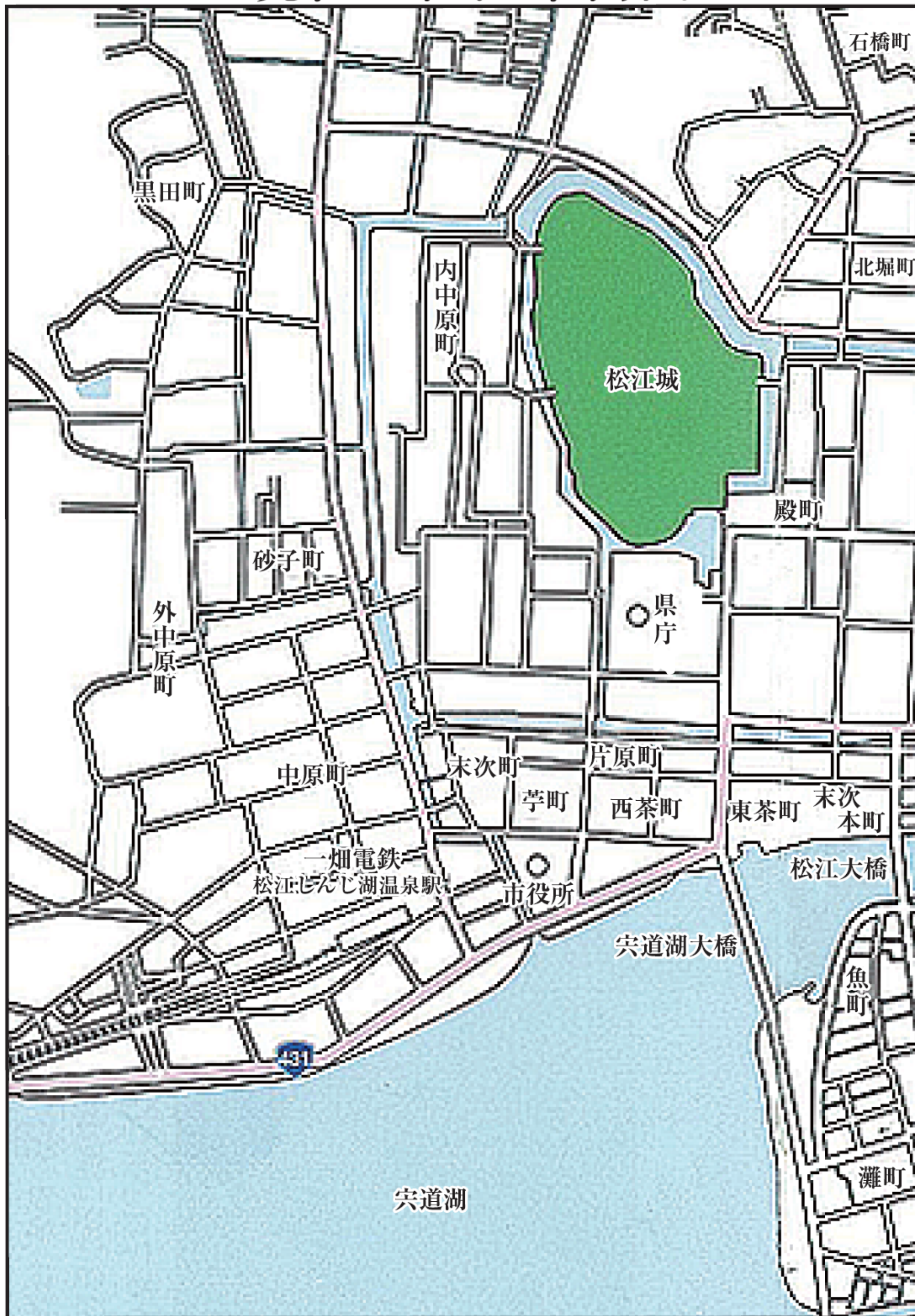


大雄寺



愛宕神社

現在の松江市街図



城とひと 縁を結んで夢つむぐ

松江開府400年祭

制作 城西地区歴史書編集委員会
編集 城西ふるさと楽会
発行 松江市城西公民館

〒690-0851 松江市堂形町 6 1 4

TEL 0852-26-2659

FAX 0852-21-5265

Mail jyosaik@mable.ne.jp

URL http://www.mable.ne.jp/~jyosaik/

印刷 有限会社デジプリント

※ 許可なく転載・複製をすることを禁じます。平成 22 年 11 月作成

末次町・西茶町・東茶町・片原町・芋町



町屋を歩く ～ 残された小路に昔の町並みをしのびながら ～

松江城の南、京橋川と宍道湖との間には昔ながらの町屋の面影を残す商店街が続いています。それぞれの町名からは江戸時代からの歴史や町民文化の香りを感じさせます。これらの町並みの特徴の一つに「小路」の存在があります。小路というのは町並みと権現灘、末次灘（末次公園などは後世の埋立地です。これらの灘がそれ以前の湖岸）あるいは京橋川とを南北に貫く細い路地のことです。現在では拡幅され新しい道路になったり新たな建物等により姿を消したりしたものもありますが、よく見ると昔からの小路が何カ所か残されていることに気づくでしょう。また平成になってからできた小路もあります。この由緒ある町並みをゆっくり散策してみましょう。

スタート▶▶ゴール 松江市役所

① 内村鱸香碑(うちむらろこうひ)

内村鱸香（1821 ～ 1901 年）は中原町に生まれた漢学者・教育者。藩校の儒学教師を勤め、さらに藩主父子の学問相談相手に任じられました。幕府学問所昌平黌で学んでいたとき村々に学校を設けるべしと庶民教育の大切さを提唱。近代学校教育の先駆者です。西茶町に家塾「相長舎」を開き、塾生は総数約 3,000 人とも言われ終生教育に尽くしました。この碑は鱸香の功績を称えるため「相長舎」近くの末次公園に建立されたものです。

② 須衛都久神社(すえつぐじんじゃ)

「出雲国風土記」に所載の社で、周辺町内の氏神。「権現さん」とも呼ばれ親しまれています。船着き場（権現灘）に面した鳥居、対岸の白湯公園にあるものと対をなし灯台の役割を果たした大灯籠があります。

宍道湖岸 地下道を経て湖岸へ。宍道湖の眺望を楽しみながら一休みしたら、再び地下道で宍道湖大橋の下をくぐって東茶町へ。

③ 京屋小路(きょうやしょうじ)

昔からの小路の一つ。豪商京屋にちなんで名付けられています。東茶町と末次本町の境です。

④ 紺屋小路(こうやしょうじ)

市街地活性化事業の一環として平成 8 年にできた新しい小路です。京橋川沿いにあった染物屋（紺屋）にちなんで名付けられました。二つの「幸福のハートマーク」を探して多数の観光客が訪れています。

⑤ 京橋川(きょうはしがわ)『水辺Ⅰ 堀端を歩く』の⑪参照

⑥ 國暉酒造(こっきしゅぞう)

江戸末期の町屋の風情を残した建物です。仕込蔵は松平家から譲渡されたものです。

⑦ ガラエ丁(がらえちょう)

“がらいちょう”とも言う。茶町界限には昔ながらの小路がたくさん残っています。ガラエ丁もその一つで、「ガラエ（ガライ）」とはタンガラ染めの「柄絵屋」からとも、築城の頃竹を敷いて物資を運んだ「ガラガラ」という音からとも言われています。

⑧ 鉤型路(かぎがたろ)

敵の侵入を防御するため工夫された変則十字路。先が見通せないことで攻めにくくする城下町の名残の一つです。地元では「矢だまり」と呼ぶ人もいます。

⑨ 土手下三宝大荒神(どてしたさんぼうだいこうじん)

火除荒神。愛宕神社との関係があるとも言われています。

⑩ 筋違橋(すじかいばし)

侵入する敵を防ぐため、橋を道とは筋違いに架け直進できないようにした城下町の名残の一つです。この橋の北詰は「勢溜」という広場の跡があった所です。

⑪ 浅野小児科医院(あさのしょうにかいいん)

建物は国の登録有形文化財（建造物）に指定されています。大正元年（1912 年）築。

⑫ 田田野医院(たのいいん)

門長屋が永井隆博士誕生の地。産湯の井戸も残されています。博士は、長崎で被爆し放射線障害に苦しみながら医師として多くの負傷者の治療に専念し、「長崎の鐘」などを著し平和の尊さを身をもって訴え続けました。奥にある白い建物は県内最古と言われる洋風建築（1871 年築）です。

⑬ 荒隈橋(あらわいばし)

この付近はかつて末次灘の波止があり水上交通の要所でした。東側一帯は末次広場と呼ばれ、江戸時代には番所もあり栄えた所です。昭和の初め頃までは“不夜城”の賑わいであったと言われています。



須衛都久神社



染物店

水辺Ⅰ 堀端を歩く ～ 内堀・外堀に残る城下町の風情を楽しみながら ～

お城の西、城西地区には堀川遊覧船の巡るお堀があります。特に内堀の随所には築城当時の面影が色濃く残り、歴史を感じさせる四季折々の風情は市民の朝夕の散歩道、観光客の松江らしさを味わえる散策路として好評です。外堀（四十間堀川、京橋川）の風情も市民に親しまれています。また姿は変わりましたが、四十間堀川から月照寺に向けての薬研堀や、大雄寺に向けての大溝の跡は昔日の面影を伝える貴重な遺構です。

スタート▶▶ゴール 松江市役所

① 荒隈橋（あらわいばし）『歴史Ⅱ 町屋を歩く』の⑬参照

② 四十間堀川（しじゅっけんぼりがわ）

松江城の外堀。完成当時はその名の通り堀の幅は40間（約72m）あったと記録されています。ヤナギ並木に沿って散策しましょう。しばらく歩くと、対岸に筋違橋、大灯籠、タブの古木（市景観重要樹木）が見られ、写真スポットとして知られています。

③ 薬研堀（やげんぼり）

四十間堀川と月照寺（松江藩主松平家菩提寺）をつなぐ堀川で、かつては藩主の月照寺参拝や石碑に用いた巨石を運ぶのに利用されたと伝えられています。

④ 親水公園（しんすいこうえん）

漫画家園山俊二の親しんだお堀端。すぐ近くに生家跡地があります。

⑤ 亀田橋（かめだばし）

昭和13年に架けられた橋で、その名は松江城のある亀田山にちなんだものです。

亀田橋のたもとは文豪志賀直哉、芥川龍之介の滞在した宿跡地があり、近くには「文豪記念碑」があります。

⑥ ヘルンの道

亀田橋から稲荷橋・新橋にかけて、四季折々の内堀の風情を楽しみながら歩きましょう。文豪小泉八雲が城山周辺を散策したことから“ヘルンの道”と名付けられています。

⑦ 稲荷橋（いなりばし）

稲荷神社に通じるこの橋は平成10年に築城当時と同じ形に復元されました。北総門橋、千鳥橋とともにお城に通じる三橋の一つとして、築城当時は城の裏の出入り口であった搦手之虎口を防御するための橋でした。

⑧ 椿谷公園（つばきだにこうえん）

椿谷公園を散策。

千鳥橋・緑樹橋を經由して

⑨ 県立図書館

閲覧室からの堀川や城山の景観は一見の価値があります。

⑩ お花畑跡

松江城三の丸に隣接したお花畑跡。薬草園だったようです。

⑪ 京橋川（きょうはしがわ）

松江城の外堀の一つ京橋川のヤナギ並木や水辺を散策しましょう。

⑫ 紺屋小路（こうやしょうじ）『歴史Ⅱ 町屋を歩く』の④参照

⑬ 末次公園（すえつぐこうえん）『水辺Ⅱ 宍道湖畔を歩く』の⑧参照



筋違橋



亀田橋



千鳥橋



山陰のあじさい寺（月照寺）



シジミ漁（松江しんじ湖温泉街）



京橋川（片原町界限）



宍道湖・夕日（南平台団地より）

